

文章⑥についてお伺いいたします

⑥次のような症状に気づいたら、使用をやめてすぐに主治医に相談して下さい。

胸がドキドキする、息苦しい、めまい、発汗、発疹や皮膚のかゆみ、全身の皮膚がひどく痛い、皮膚や粘膜の水ぶくれ、顔や手足のむくみ、のどが痛い、発熱、腹痛・下痢が続く、咳が出る、皮膚や白目が黄色くなる。

Q6.この文章の意味はわかりましたか。

- 1) 文章全体がわかった → Q7.へ
- 2) わらない単語もあるが文章全体の意味はわかった → Q7.へ
- 3) 一部わかるがわからないところがある → SQ1.へ
- 4) 全くわからない → SQ1.へ

SQ1. (Q6.で 3) ~4) と答えた人にお聞きします。

では、この文章であなたがわからなかった部分を (A) の①~②⑤の中から全てをお選びください。

また、そのわからなかったことについて最も近いものを (B) の 1.~2.中からそれぞれ1つずつお選び下さい。

(A)

次のような症状に気づいたら、使用をやめてすぐに主治医に相談して下さい。

胸がドキドキする、息苦しい、めまい、発汗、発疹や皮膚のかゆみ、全身の皮膚がひどく痛い、皮膚や粘膜の水ぶくれ、顔や手足のむくみ、のどが痛い、発熱、腹痛・下痢が続く、咳が出る、皮膚や白目が黄色くなる。

(B)

1. 単語の意味はわかるが、この文章での意味がわからない
2. 単語そのものの意味がわからないので文章の意味がわからない

文章⑦についてお伺いいたします

⑦次のような症状に気づいたら、なるべく早めに主治医に相談して下さい。

下痢、むかむかする、胃痛、体がだるい、頭痛、眠気、めまい、手足がしびれる

Q7. この文章の意味はわかりましたか。

- 1) 文章全体がわかった → Q8.へ
- 2) わらない単語もあるが文章全体の意味はわかった → Q8.へ
- 3) 一部わかるがわからないところがある → SQ1.へ
- 4) 全くわからない → SQ1.へ

SQ1. (Q7.で 3) ~4) と答えた人にお聞きします。

では、この文章であなたがわからなかった部分を (A) の①~③の中から全てをお選びください。

また、そのわからなかったことについて最も近いものを (B) の 1.~2.中からそれぞれ1つずつお選び下さい。

(A)

次のような症状に気づいたら、なるべく早めに主治医に相談して下さい。

①
下痢，むかむかする，胃痛，体がだるい，頭痛，眠気，めまい，手足がしびれる
④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬

(B)

1. 単語の意味はわかるが、この文章での意味がわからない
2. 単語そのものの意味がわからないので文章の意味がわからない

傷口の処理

◆ぴったり覆って乾燥防ぐ

子供がころんで、ひざをすりむいたり、不注意に包丁で指を切ったり……。

日常よくある傷。どう処置していますか？

⑧消毒のうえガーゼをして、かさぶたを作るよう早く乾燥させて——こんな方法が、まだ一般的だろう。

だが、これでは治るのに時間がかかって、傷跡も残りやすいという。

「⑨傷口は乾かすより、ぴったり覆って 湿潤状態を保つ方が早くきれいに治ることが最近わかり、100年来の医療の考え方が大きく転換されて来ています」

北里大学名誉教授の塩谷信幸さん(国際形成外科学会副理事長)は説明する。

⑩皮膚が傷つくと、修復を図る自然治癒力が発揮される。⑪その際、傷口からにじみ出る体液が重要な役割をする。⑫外気に触れた体液はかさぶたになり、その下では表皮が再生され、コラーゲンや毛細血管が再形成されて傷を埋めていくのだ。

「⑬体液は傷口を治す“カクテル”。できるだけ乾燥を防ぐことが大切です」(塩谷さん)

⑭傷口は消毒するよりも、すばやく水道水で異物や細菌を洗浄する。⑮再生すべき細胞が消毒薬で破壊されて、かえって 治りが遅くなることもある。

⑯ガーゼの繊維が傷の中に入り込んで、はがす時に引っ張られて 治りかけの皮膚を壊すことにもなる。

⑰体液をむやみに拭(ふ)かず、救急絆創膏(ばんそうこう)(カット絆)などを当てる。やけどでできた水疱(すいぼう)も破らないようにした方がいい。

⑱体液は半透明でさらっとしており、色がにごって、臭(におい)のある膿(うみ)とは違う。

⑲アメリカの実験では傷面をそのままにして乾かすよりもカット絆をした方が2倍早く治る。それも湿潤状態にすると、さらに2倍早いという結果が出ている。

ただし、数分たっても出血がとまらなかつたり、砂や土、ガラス、ごみなどが入り込んだりして取れない傷は、医師に診てもらったほうがいい。家庭で処置できる傷か、見極めをしっかりとってはならない。

なお塩谷さんはホームページ「創傷治癒センター」(<http://www.woundhealing-center.jp>)で傷の相談に当たっている。

(医療情報部・前野一雄) (2002年8月25日)

【この記事・写真等は、読売新聞の許諾を得て転載しています】

選び下さい。

(A)

傷口は乾かすより、ぴったり覆って 湿潤状態を保つ方が早くきれいに治ることが最近わかり、

① ② ③ ④ ⑤ ⑥

100年来の医療の考え方が大きく転換されて来ています。

⑦ ⑧ ⑨ ⑩

(B)

- | |
|---------------------------------|
| 1. 単語の意味はわかるが、この文章での意味がわからない |
| 2. 単語そのものの意味がわからないので文章の意味がわからない |

文章⑩についてお伺いいたします

⑩皮膚が傷つくと、修復を図る自然治癒力が発揮される。

Q10. この文章の意味はわかりましたか。

- 1) 文章全体がわかった → Q11.へ
- 2) わらない単語もあるが文章全体の意味はわかった → Q11.へ
- 3) 一部わかるがわからないところがある → SQ1.へ
- 4) 全くわからない → SQ1.へ

SQ1. (Q10.で 3) ~4) と答えた人にお聞きします。)

では、この文章であなたがわからなかった部分を (A) の①~⑤の中から全てをお選びください。
また、そのわからなかったことについて最も近いものを (B) の 1.~2.中からそれぞれ 1 つずつお
選び下さい。

(A)

皮膚が傷つくと、修復を図る自然治癒力が発揮される。

① ② ③ ④ ⑤

(B)

- | |
|---------------------------------|
| 1. 単語の意味はわかるが、この文章での意味がわからない |
| 2. 単語そのものの意味がわからないので文章の意味がわからない |

文章⑩についてお伺いいたします

⑩その際、傷口からにじみ出る体液が重要な役割をする。

Q11. この文章の意味はわかりましたか。

- 1) 文章全体がわかった → Q12.へ
- 2) わらない単語もあるが文章全体の意味はわかった → Q12.へ
- 3) 一部わかるがわからないところがある → SQ1.へ

文章⑬についてお伺いいたします

⑬ 体液は傷口を治す“カクテル”。できるだけ乾燥を防ぐことが大切です

Q13. この文章の意味はわかりましたか。

- 1) 文章全体がわかった → Q14.へ
- 2) わらない単語もあるが文章全体の意味はわかった → Q14.へ
- 3) 一部わかるがわからないところがある → SQ1.へ
- 4) 全くわからない → SQ1.へ

SQ1. (Q13.で 3)～4) と答えた人にお聞きします。

では、この文章であなたがわからなかった部分を (A) の①～⑦の中から全てをお選びください。
また、そのわからなかったことについて最も近いものを (B) の 1.～2.中からそれぞれ1つずつお選び下さい。

(A)

体液は傷口を治す“カクテル”。できるだけ乾燥を防ぐことが大切です

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦

(B)

1. 単語の意味はわかるが、この文章での意味がわからない
2. 単語そのものの意味がわからないので文章の意味がわからない

文章⑭についてお伺いいたします

⑭ 傷口は消毒するよりも、すばやく 水道水で異物や細菌を洗淨する。

Q14. この文章の意味はわかりましたか。

- 1) 文章全体がわかった → Q15.へ
- 2) わらない単語もあるが文章全体の意味はわかった → Q15.へ
- 3) 一部わかるがわからないところがある → SQ1.へ
- 4) 全くわからない → SQ1.へ

SQ1. (Q14.で 3)～4) と答えた人にお聞きします。

では、この文章であなたがわからなかった部分を (A) の①～⑦の中から全てをお選びください。
また、そのわからなかったことについて最も近いものを (B) の 1.～2.中からそれぞれ1つずつお選び下さい。

(A)

傷口は消毒するよりも、すばやく 水道水で異物や細菌を洗淨する。

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦

(B)

- | |
|---|
| 1. 単語の意味はわかるが、この文章での意味がわからない
2. 単語そのものの意味がわからないので文章の意味がわからない |
|---|

文章⑭についてお伺いいたします

⑭再生すべき細胞が消毒薬で破壊されて、かえって 治りが遅くなることもある。

Q15. この文章の意味はわかりましたか。

- 1) 文章全体がわかった → Q16.へ
- 2) わらない単語もあるが文章全体の意味はわかった Q16.へ
- 3) 一部わかるがわからないところがある SQ1.へ
- 4) 全くわからない SQ1.へ

SQ1. (Q15.で 3)～4) と答えた人にお聞きします。)

では、この文章であなたがわからなかった部分を (A) の①～⑥の中から全てをお選びください。
また、そのわからなかったことについて最も近いものを (B) の 1.～2.中からそれぞれ1つずつお選び下さい。

(A)

再生すべき細胞が消毒薬で破壊されて、かえって 治りが遅くなることもある。

①	②	③	④	⑤	⑥
---	---	---	---	---	---

(B)

- | |
|---|
| 3. 単語の意味はわかるが、この文章での意味がわからない
4. 単語そのものの意味がわからないので文章の意味がわからない |
|---|

文章⑯についてお伺いいたします

⑯ガーゼの繊維が傷の中に入り込んで、はがす時に引っ張られて 治りかけの皮膚を壊すことにもなる。

Q16. この文章の意味はわかりましたか。

- 1) 文章全体がわかった → Q17.へ
- 2) わらない単語もあるが文章全体の意味はわかった → Q17.へ
- 3) 一部わかるがわからないところがある → SQ1.へ
- 4) 全くわからない → SQ1.へ

SQ1. (Q16.で 3)～4) と答えた人にお聞きします。)

では、この文章であなたがわからなかった部分を (A) の①～⑧の中から全てをお選びください。
また、そのわからなかったことについて最も近いものを (B) の 1.～2.中からそれぞれ1つずつお選び下さい。

(A)

ガ一ゼの纖維が傷の中に入り込んで、はがす時に引っ張られて	治りかけの皮膚を壊すことにもなる。						
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧

(B)

- | |
|---------------------------------|
| 1. 単語の意味はわかるが、この文章での意味がわからない |
| 2. 単語そのものの意味がわからないので文章の意味がわからない |

文章⑩についてお伺いいたします

⑩体液をむやみに拭(ふ)かず、救急絆創膏(ばんそうこう)(カット絆)などを当てる。やけどでできた水疱(すいほう)も破らないようにした方がいい。

Q17. この文章の意味はわかりましたか。

- 1) 文章全体がわかった → Q18.へ
- 2) わらない単語もあるが文章全体の意味はわかった → Q18.へ
- 3) 一部わかるがわからないところがある → SQ1.へ
- 4) 全くわからない → SQ1.へ

SQ1. (Q17.で 3) ~4) と答えた人にお聞きします。)

では、この文章であなたがわからなかった部分を (A) の①~⑥の中から全てをお選びください。また、そのわからなかったことについて最も近いものを (B) の 1.~2.中からそれぞれ1つずつお選び下さい。

(A)

体液をむやみに拭(ふ)かず、救急絆創膏(ばんそうこう)(カット絆)などを当てる。やけどでできた水疱(すいほう)も破らないようにした方がいい。					
①	②	③	④	⑤	⑥

(B)

- | |
|---------------------------------|
| 1. 単語の意味はわかるが、この文章での意味がわからない |
| 2. 単語そのものの意味がわからないので文章の意味がわからない |

文章⑪についてお伺いいたします

⑪体液は半透明でさらっとしており、色がにごって、臭(におい)のある膿(うみ)とは違う。

Q18. この文章の意味はわかりましたか。

- 1) 文章全体がわかった → Q19.へ
- 2) わらない単語もあるが文章全体の意味はわかった → Q19.へ
- 3) 一部わかるがわからないところがある → SQ1.へ
- 4) 全くわからない → SQ1.へ

S Q1. (Q18.で 3) ~4) と答えた人にお聞きします。)

では、この文章であなたがわからなかった部分を (A) の①~④の中から全てをお選びください。
また、そのわからなかったことについて最も近いものを (B) の 1.~2.中からそれぞれ1つずつお
選び下さい。

(A)

体液は半透明でさらっとしており、色がにごって、臭(におい)のある膿(うみ)とは違う。

①

②

③

④

(B)

1. 単語の意味はわかるが、この文章での意味がわからない
2. 単語そのものの意味がわからないので文章の意味がわからない

文章⑱についてお伺いいたします

⑱アメリカの実験では傷面をそのままにして乾かすよりもカット絆をした方が2倍早く治る。それも湿潤状態にすると、さらに2倍早いという結果が出ている。

Q19. この文章の意味はわかりましたか。

- 1) 文章全体がわかった → Q20.へ
- 2) わらない単語もあるが文章全体の意味はわかった → Q20.へ
- 3) 一部わかるがわからないところがある S Q1.へ
- 4) 全くわからない S Q1.へ

S Q1. (Q19.で 3) ~4) と答えた人にお聞きします。)

では、この文章であなたがわからなかった部分を (A) の①~⑤の中から全てをお選びください。
また、そのわからなかったことについて最も近いものを (B) の 1.~2.中からそれぞれ1つずつお
選び下さい。

(A)

アメリカの実験では傷面をそのままにして乾かすよりもカット絆をした方が2倍早く治る。それも湿潤
状態にすると、さらに2倍早いという結果が出ている。

①

②

③

④

⑤

(B)

1. 単語の意味はわかるが、この文章での意味がわからない
2. 単語そのものの意味がわからないので文章の意味がわからない

Q20.あなたは医学や医療、薬に関係する内容のお仕事をされたり専門的に勉強をされていますか。
以下の中からあなたに最も近いものを1つお選び下さい。

1. 現在関係する仕事をしたり勉強をしている
2. 以前そのような仕事をしたり勉強をしていた
3. そのような仕事をしたり専門的に勉強をしたことはない

Q21.あなたはこの2～3年の間、入院をしたり長く治療を行ったりしたことがありますか。
以下の中からあなたに最も近いものを1つお選び下さい。

1. 自分自身入院をしたり長い治療を受けたことがある
2. 同居する家族が入院をしたり長い治療を受けたことがある
3. どちらにも当てはまらない

Q22.あなたは医療や薬に関する情報などに興味や関心がありますか。
以下の中からあなたに最も近いものを1つお選び下さい。

1. 大変興味や関心がある
2. まあ興味や関心がある
3. どちらともいえない
4. あまり興味や関心がない
5. 全く興味や関心がない

厚生科学研究医薬安全総合研究事業
分担研究報告書

有効性情報の患者表現に関する研究

分担研究者 増原慶壮 聖マリアンナ医科大学病院薬剤部長

研究要旨

臨床における患者の薬剤の使用状況は必ずしも医療提供者が期待するものとはなっていない。その原因として、患者が薬剤使用の目的や効果等への理解が不十分な状況であり、自己の疾病における薬物療法の重要性を認識できていないことが考えられる。こうした状況下、患者が求める有効性に関する情報を整備充足し、さらにそれを患者が正しく理解できる表現で提供し、患者が真にその情報を自身の事象としてイメージして理解し、自己の薬剤使用において情報を反映しえるような情報提供体制を構築する必要がある。

本研究では、臨床現場における有効性情報の提供状況と患者ニーズを調査し、この結果と考察を、今後の有効性情報の提供体制の構築に反映させるものである。

A. 研究目的

患者と医療従事者が疾病の治療という同じ目的意識の下でコミュニケーションを取れるような医療環境の実現を目指し、そのために、患者が求める医薬品情報の整備充足を図り、患者が医薬品の使用目的と必要性を正しく理解し、積極的に自らの医療への参画、服薬コンプライアンスの向上、さらには薬物療法の効率化を図ることを目標におき、本研究では、医薬品情報のうち、特に効能・効果などの有効性情報に関する服薬指導の実施状況と患者ニーズを調査する。この調査結果及びその考察を患者が求める医薬品情報の整備充足の参考とすることを目的とする。また、平成13年9月の厚生労働省「医薬品情報提供の在り方に関

する懇談会」最終報告－医薬品総合情報ネットワークの構築－において、患者・国民向けの医薬品情報を掲載する方針が示されているが、こうしたネットワーク構築での活用も想定している。

B. 研究方法

事前に調査協力の了解を得た病院及び薬局の薬剤師に対して、アンケート用紙を送付し、その設問に対して各施設における実施状況と患者ニーズを回答し返送してもらう。その回答を集計し、そのデータの解析を行う。

アンケートの内容は以下のように、3つの大項目について、いくつかの質問が設定されたものである。

(詳細は、別紙のとおり)

【アンケート設問】

(1) 回答者情報

- ①年齢
- ②性別
- ③経験年数
- ④勤務環境

(病院の場合) 病床数：_____床

薬剤師数：常勤_____名 非常勤_____名

服薬指導を行っている薬剤師数：_____名

服薬指導件数：月平均_____件

院外処方せん発行率：_____%

(薬局の場合)

薬剤師数：常勤_____名 非常勤_____名

処方せん受付枚数：月平均_____枚

処方せん発行医療機関数：約_____機関

(2) 服薬指導業務の実施状況

1) 通常説明している内容服薬指導内容

疾患について：

- ①診断名②病因と症状③予後④検査と検査値⑤治療方針⑥薬物治療⑦その他の治療

(食事、運動療法) ⑧日常生活上の注意
薬剤について：

- ①薬品名と形状②効能・効果③使用方法④作用機序⑤治療上の必要性

- ⑥服薬期間⑦使用忘れた場合の危険性⑧使用忘れた場合の対応⑨副作用症状と発現時の対処方法⑩相互作用(薬物、食物・嗜好品)⑪他科受診及び一般用医薬品購入時の注意⑫使用上及び保管上の注意

- ⑩相互作用(薬物、食物・嗜好品)⑪他科受診及び一般用医薬品購入時の注意⑫使用上及び保管上の注意

2) 対象疾患の表現

- ①主に適応症名で表現②主に病態で表現③疾患や患者により表現を使い分け

3) 次の疾患で主に病態で表現する疾患とその表現

- ①糖尿病②高血圧症③狭心症④高脂血症⑤骨粗鬆症

4) 次の薬剤の薬効説明の表現

- ①経口糖尿病薬②ジギタリス製剤③ACE阻害剤(エナラプリル)④Ca拮抗剤⑤HMG-CoA還元酵素阻害剤⑥アルファカルシドール製剤

(3) 服薬指導業務に対する患者ニーズ

1) 患者が説明を求めていると思われる情報の優先順位。

疾患について：

- ①診断名②病因と症状③予後④検査と検査値⑤治療方針⑥薬物治療⑦その他の治療法(食事療法、運動療法)⑧日常生活上の注意
薬剤について：

- ①薬品名と形状②効能・効果③使用方法④作用機序⑤治療上の必要性⑥服薬期間⑦使用忘れた場合の危険性⑧使用忘れた場合の対応⑨副作用症状と発現時の対処方法⑩相互作用(薬物、食物・嗜好品)⑪他科受診及び一般用医薬品購入時の注意⑫使用上及び保管上の注意

2) 患者から多くある質問、また頻度は少なくても重視すべき質問の事例

3) 効能・効果、予後など有効性に関わる内容の患者の心情

①服用している薬剤の効能・効果は、自分の病気に関係ないものも、すべて知りたい。

②自分の病気に関係のない効能・効果、説明はいらぬ。(知らない方がいい。)

③効能・効果について、どのような作用で効くのか(作用機序など)、詳しく知りたい。

④効能・効果について、詳しい作用などの説明はいらぬ。何の病気の薬か分かればよい。

⑤どの位の服用期間を必要とするのか、服用により予後はどのようになるか、知りたい。

(倫理面への配慮)

本研究は、個人情報を使用するものではない。

C. 研究結果

(詳細は、別紙のとおり)

【調査実施状況】

(1) 調査期間

平成15年3月1日～31日

(2) 調査実施薬剤師

病院薬剤師：34名

薬局薬剤師：72名

【調査実施薬剤師の基礎情報】

(1) 薬局薬剤師

30～40歳代で約60%と回答者の過半数を占め、女性が約71%と過半数となった。経験5～10年が約40%と最も多く、次いで11～20年が約36%と多い。

勤務薬局については、処方せん受付が1000～2000枚の薬局が約25%で最も多く、次いで2000～3000枚の薬局が約23%と多かった。勤務薬剤師数は、2名が31%で最も多く、2～3名の施設で約52%を占めたが、1名の施設も約4分の1あった。

(2) 病院薬剤師

20～40歳代ほぼ均等の割合の回答者となり、男女比は女性が約71%と過半数を占めた。経験年数は、5年未満～21年以上ほぼ均等な割合となっていた。

勤務病院については、病床数で見ると100～501床以上と、バランスのよい割合となった。勤務薬剤師数は20名未満の施設が約64%と過半数と占めた。月平均服薬指導件数は、100件未満が24%最も多く299件未満で過半数を占めた。

院外処方せん発行率は75%以上が62%と過半数を占めた。

【アンケート集計結果】

(1) 服薬指導業務の実施状況

1) 通常説明している内容服薬指導内容疾患について：

病院、薬局薬剤師ともに、「日常生活上の注意」「病因と症状」「薬物治療」「検査と検査値」等の内容が多かった。

薬剤について：

病院、薬局薬剤師ともに、「薬剤名や形状」「効能・効果」「使用方法」等の内容が多かった。また薬局薬剤師で、「他科受診・OTC薬購入」「使用上・保管上の注意」も多かった。

2) 対象疾患の表現

薬局薬剤師では、「適応症名での表現」、「病態での表現」、「疾患や患者により表現を使い分ける」がほぼ均等の割合であった。病院薬剤師では、「病態での表現」が50%、「疾患や患者により表現を使い分ける」が約33%で、両者で大部分を占め、「適応症名での表現」は約17%と少なかった。

3) 主に病態で表現する疾患とその表現

病態で表現する疾患として、薬局薬剤師では、「高脂血症」と「骨粗鬆症」が23%と最も多く、次いで、「狭心症」「糖尿病」「高血圧」の順となった。どの疾患も病態で説明していない場合も約8%あった。病院薬剤師では、「狭心症」が約23%と最も多く、次いで「糖尿病」「高血圧」「高脂血症」「骨粗鬆症」の順となった。どの疾患も病態で説明していない場合も約30%あった。

4) 薬効説明の表現

薬局薬剤師、病院薬剤師とも、薬剤の薬効説明を、主に「薬効と病名」の組み合わせで表現するが多かった。次いで「病名のみ」「作用機序と薬効と病名」「薬効と

予後」の組み合わせの順となった。薬剤別では、「Ca拮抗剤」「HMG-Co阻害剤」でのその傾向が強かった。また「経口糖尿病薬」では「薬効と予後」の組み合わせで表現する場合も比較的多く、「ACE阻害剤」や「アルファカルシドール」では「作用機序と薬効と病名」で表現する場合も多かった。

(2) 服薬指導業務に対する患者ニーズ

1) 患者が説明を求めていると思われる情報の優先順位
疾患について：

薬局薬剤師では、「診断名」が最も多く、次いで「病因と症状」「薬物療法」「日常生活上の注意」などが多かった。病院薬剤師では、「薬物治療」が圧倒的に多く次いで「日常生活上の注意」「予後」などが多かった。薬剤について：

薬局薬剤師では、「薬品名と形状」が最も多く、次いで「効能・効果」「服薬期間」「副作用症状と発現時の対処」「相互作用」が同程度にあった。病院薬剤師では、「薬品名と形状」「効能・効果」「使用方法」が同程度で最も多く、次いで「副作用症状と発現時の対処法」「服薬期間」などが多かった。

2) 患者から多くある質問。また、頻度は少なくとも重視すべき質問の事例
多くある質問：

「他科受診による併用薬、また飲食物やOTC薬との相互作用」、また「どの位服用しなくてはならないか」「ずっと服用しなくてはならないのか」など「服薬期間」についての質問も多かった。「この薬は強いのか」「ずっと服用していて副作用は大丈夫か」など「副作用」についての質問も多かった。

「小児の薬ののませ方」「のみ忘れた場合の対応」など服薬方法に関する質問も目立った。

重視すべき質問の事例：

「飲食物との相互作用」や「小児の薬ののませ方」、また「癌患者からの質問」「妊婦・授乳婦からの質問」などがあがっている。また「なぜ薬を服用しなければならないか分からない」など「薬効や治療上の必要性」に関する質問もあった。

3) 効能・効果、予後など有効性に関わる内容の患者の心情

薬局薬剤師、病院薬剤師とも、「どの位服用期間を必要とするのか、服用により予後はどのようになるのか、知りたい」が最も多く、次いで薬局薬剤師では「効能・効果について、詳しくなどの説明は知らない。何の病気の薬か分かればよい」「服薬していないと、どのような状態になるのか、知りたい」などの心情が多かった。病院薬剤師では、次いで「服薬していないと、どのような状態になるのか、知りたい」「使い方さえ分かれば、詳しい説明などは知らない」「効能・効果について、そのような作用で効くのか、詳しく知りたい」「効能・効果について、詳しくなどの説明は知らない。何の病気の薬か分かればよい」がほぼ同程度で多かった。

D. 考察

【調査実施薬剤師の基礎情報の考察】

アンケート調査に回答した薬剤師群について、薬局、病院とも比較的臨床経験豊富で、20～40歳代の薬剤師と、偏りのない回答が得ら思われる。また勤務施設について、薬局については、処方せん受付枚数が500～3000枚、勤務薬剤師数が1～5名以

上と様々な規模の薬局環境がうかがわれた。また病院薬剤師では、病床数 100 未満～501 以上、勤務薬剤師数 10 名以下～30 名余と、規模の大きな病院に集中することなく、様々な規模の病院環境がうかがわれた。したがって、今回の調査について、薬剤師及び施設規模についても、偏りのない調査が実施できたと考えられる。

【アンケート集計結果の考察】

(1) 服薬指導業務の実施状況

服薬指導の内容としては、薬局薬剤師、病院薬剤師とも、「薬剤名や形状」「効能・効果」「使用方法」など薬剤使用において重要な内容に「日常生活上の注意」「病因と症状」「薬物治療」「検査と検査値」等を併せて説明している傾向があると思われる。また薬局薬剤師では、「他科受診・OTC薬購入」「使用上・保管上の注意」などの内容も多く、患者が、入院中に管理させた体制下の服薬ではなく、セルフメディケーションの状況で重要な内容の説明がなされている状況がうかがわれる。

疾患の表現については、薬局薬剤師では、「適応症名での表現」、「病態での表現」、「疾患や患者により表現を使い分ける」がほぼ均等の割合であった。病院薬剤師では、「病態での表現」が50%、「疾患や患者により表現を使い分ける」が約33%で、両者で大部分を占めた。病院においては、チーム医療の一員として患者の病態を理解し服薬指導が実施され易いが、薬局の場合、薬剤師と医師や他の医療従事者とのコンセンサスとりにくく、患者の病態の理解が十分できない場合があることがうかがわれる。

疾患別にみると、「高脂血症」「骨粗鬆症」

「狭心症」など患者が病名だけでは、その病因や症状など病態を理解しにくい疾患については、病態を詳しく説明し、服薬指導を行う場合が多いと思われる。また「高血圧症」などのように、一般の患者にもその病名や病態の理解が浸透しているような疾患については、疾患名で説明する場合も多いといえる。

薬効説明の表現については、薬局薬剤師、病院薬剤師とも、主に「薬効と病名」の組み合わせで表現するケースが多く、次いで「病名のみ」「作用機序と薬効と病名」「薬効と予後」の組み合わせの順となった。すなわち、患者が自身の疾患についての理解ができていない場合、投与される薬剤の意義や薬効を説明することで患者はその薬剤に必要性や有益性などの理解ができることがうかがえる。薬剤別にみると、「経口糖尿病薬」では「薬効と予後」の組み合わせで表現するケースが多く、「ACE阻害剤」や「アルファカルシドール」では「作用機序と薬効と病名」で表現するケースが多い。糖尿病のように適正な薬物治療と合併症などの予後の関連性が深い場合や、その薬剤の効果を簡単な薬効の説明では患者に理解し難い場合には、作用機序の説明も実施しているといえる。

(2) 服薬指導業務に対する患者ニーズ
患者が説明を求めていると思われる情報の優先順位では、疾患については、薬局薬剤師では、「診断名」が最も多く、次いで「病因と症状」「薬物療法」「日常生活上の注意」などが多くあった。病院薬剤師では、「薬物治療」が圧倒的に多く、次いで「日常生活上の注意」「予後」などが多かった。薬局薬剤師においては、患者が医師の説明や聞き

漏れた部分の確認を薬局薬剤師に求めていることがうかがわれる。一方病院薬剤師においては、入院という状況下において、疾患については医師などにその説明が求められ、薬剤師には薬物治療に関連する内容の説明を求めているものと思われる。「日常生活上の注意」の説明については、ともに高く、患者が薬剤師にヘルスアドバイザーとしての役割を求めていることがうかがわれる。

薬剤に関しては、ともに「薬品名と形状」「効能・効果」など適正な薬剤使用に不可欠な情報を患者が確実に得たいという様子がうかがえる。また「服薬期間」のように予後や治療計画に関わる内容や「副作用症状と発現時の対処」「相互作用」のように安全性に関する内容への関心が大きいことがうかがえる。

この様子は、患者から多くある質問。また、頻度は少なくとも重視すべき質問の事例の結果からも考えられる。

患者の心情について、「どの位服用期間を必要とするのか、服用により予後はどのようなようになるのか、知りたい」や「服薬していないと、どのような状態になるのか、知りたい」などが多くことから、患者が病気や治療の将来など予後や治療計画に関わる内容を非常に危惧している状況が考えられる。一方、「効能・効果について、詳しく作用の説明などはいらない。何の病気の薬か分かればよい」「使い方さえ分かれば、詳しい説明などはいらない」といった心情、

「効能・効果について、そのような作用で効くのか、詳しく知りたい」などの心情から、患者の求める効能・効果、予後など有効性に関わる情報は、様々であり、また個

人においても、その時の病状や心情、また周辺環境などによって変化するものと考えられる。また薬剤師側の説明について、不十分な部分がありこうした心情を生み出す結果となることも考えられる。

E. 結論

服薬指導業務の実施状況については、患者が入院という管理体制におかれての服薬か、あるいは自宅におけるセルフメディケーションという状況であるかの違いから、薬局薬剤師と病院薬剤師の指導内容に若干の差があるものの、ともに医薬品の適正使用において重要な内容を指導し、また患者ニーズの高い内容が指導されている状況が明らかになった。

服薬指導業務に対する患者ニーズについても、同様に適正な薬剤使用に不可欠な情報を患者が確実に得たいという様子が明らかになった。また患者が病気や治療の将来など予後や治療計画に関わる内容を非常に危惧している状況がうかがわれ、「服薬期間」のように予後や治療計画に関わる内容や「副作用症状と発現時の対処」「相互作用」のように安全性に関する内容への関心が大きいことが明らかになった。

また薬物治療のみでなく、広くヘルスアドバイザーとしての役割を薬剤師に求めている側面もあることがわかった。

患者の求める効能・効果、予後など有効性に関わる情報は、様々であり、また個人においても、その時の病状や心情、また周辺環境などによって変化するものと考えられる。したがって、十分整備された医薬品情報と適正かつリアルタイムに収集された患者情報をもとに、個々の患者に個別化した服薬指導が必要なる。

〔有効性情報の患者表現〕に関する調査報告

1. アンケート調査目的

患者と医療従事者が疾病の治療という同じ目的意識の下でコミュニケーションを取れるような医療環境の実現のためには、患者が求める医薬品情報の整備充足を図り、患者が医薬品の使用目的と必要性を正しく理解し、積極的に自らの医療への参画、服薬コンプライアンスの向上、さらには薬物療法の効率化を図ることが必要となる。

今回のアンケートでは、医薬品情報のうち、特に効能・効果など有効性情報に関する服薬指導の実施状況と患者ニーズを調査し、これを患者が求める医薬品情報の整備充足の参考とすることを目的としている。

2. アンケート調査期間

平成15年3月1日～31日 1ヶ月

3. アンケート調査実施対象

病院薬剤師 : 34名
薬局薬剤師 : 72名

4. アンケート調査内容

別紙のアンケート用紙のとおり。

5. アンケート調査方法

調査方法は、事前にアンケート協力の依頼をし、アンケート協力の了解を得た施設に、アンケート用紙を郵送。施設の薬剤師が回答を記入し、返送してもらい、回収した。

6. アンケート調査結果

(1) アンケート調査実施薬剤師の基本情報

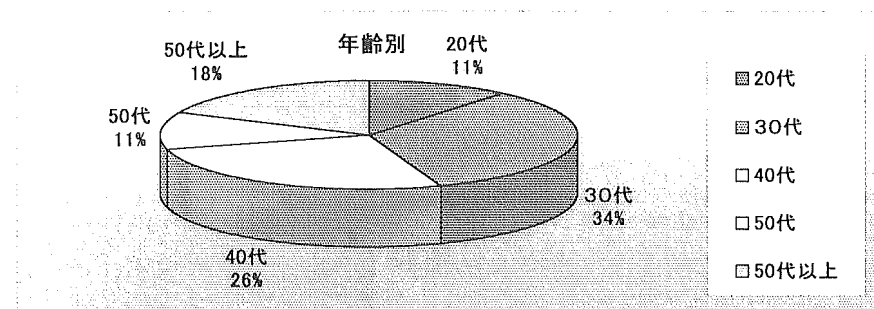
1) 薬局薬剤師

1) - 1 薬局薬剤師の基本情報

アンケート調査を実施した薬局薬剤師の基本情報は、以下のものであった。

【年齢別】

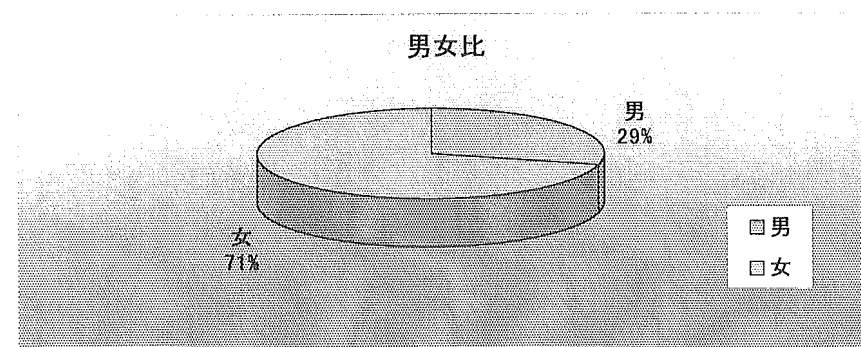
年代	20代	30代	40代	50代	50代以上	合計
人数	8	24	19	8	13	72
比率	11.1%	33.3%	26.4%	11.1%	18.1%	100.0%



30年代が約34%と最も多く次いで40年代が約26%となり、30～40年代で約60%と過半数を占める。

【男女比】

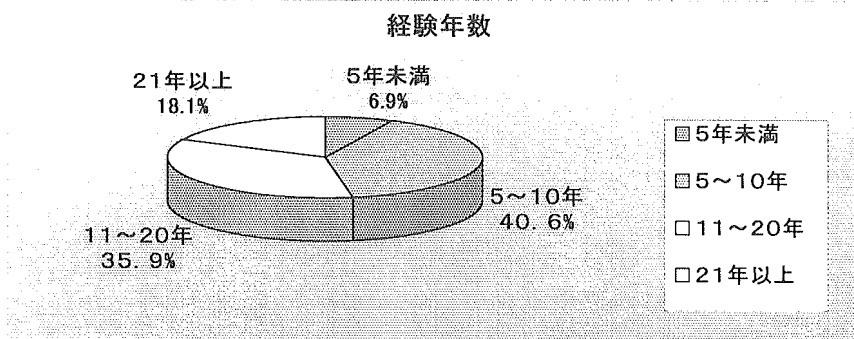
	男	女	合計
人数	21	51	72
比率	29.2%	70.8%	100.0%



女性が約71%と、過半数を占める。

【経験年数】

経験年数	5年未満	5～10年	11～20年	21年以上	合計
人数	5	29	25	13	72
比率	6.9%	40.3%	34.7%	18.1%	100.0%



経験5～10年が約40%と最も多く、次いで11～20年が約36%となり、経験5～20年で約76%と過半数を占め、